

第4回新市建設計画策定小委員会次第

日時:平成16年6月14日(月)
午後16時30分から
場所:長岡市役所第3委員会室

1 開 会

2 新市建設計画書(素案)について……………資料1

3 その他

4 閉 会

(仮称)

なごか地域新市建設計画 (素案)

新市の地域らしさ価値を高める行動計画

第3章新市建設計画策定の概要以降

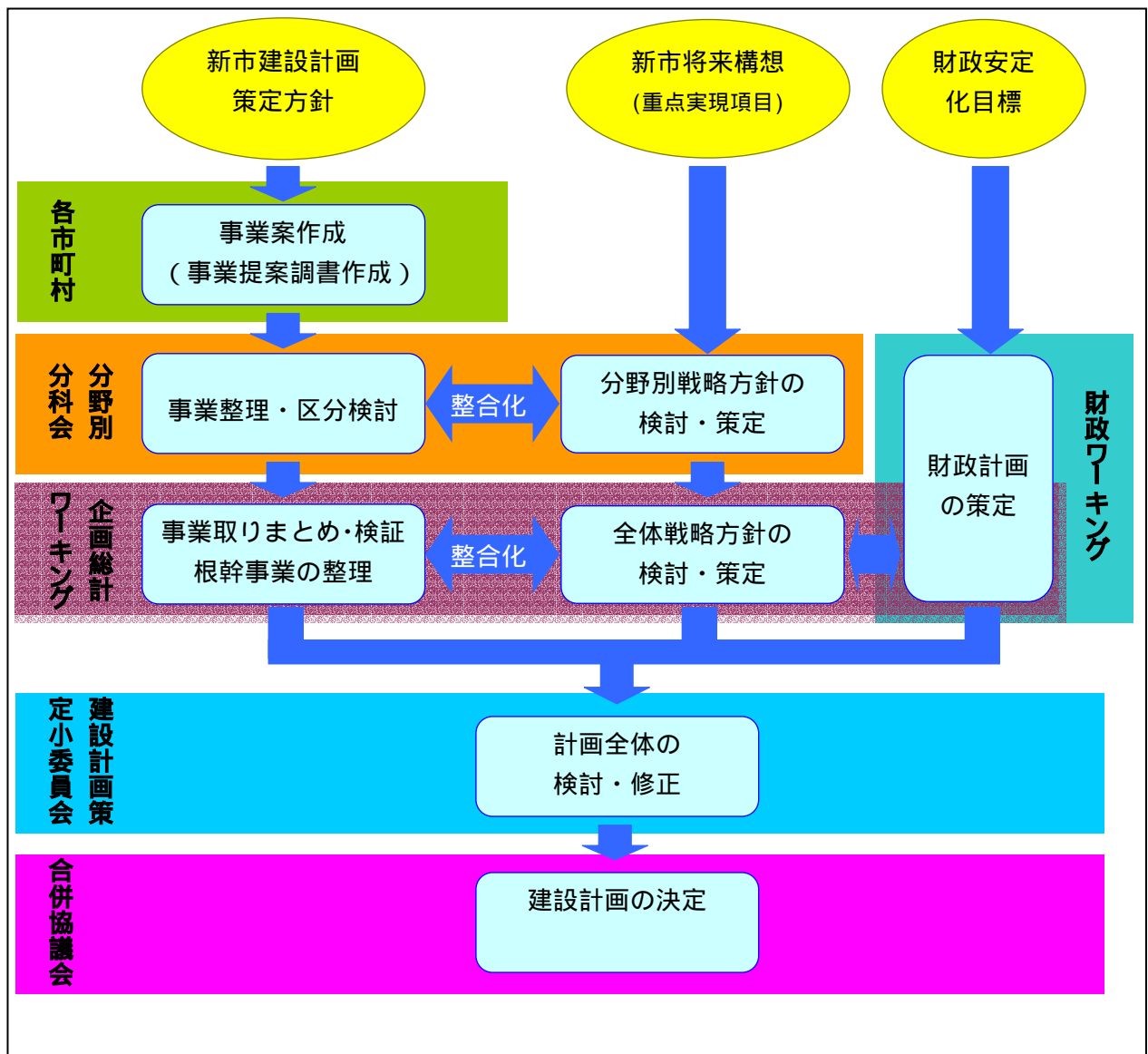
平成 16 年 6 月 14 日

序章	4
1. はじめに	4
2. 私たちはなぜ、合併するのでしょうか（建設計画策定の背景）	5
(1) 市町村の枠を越えた広域的な行政が必要になっています	6
(2) グローバル時代の地方分権を担う行政機能の強化が必要です	6
(3) 地域を見つめ直し、新しい長岡新市を創ることが必要です	6
(4) 住民と行政が連携・協力する新しい地域経営が求められています	7
(5) 安定した財政基盤の確立が急務となっています	7
3. 建設計画策定に向けて	8
(1) 建設計画の位置づけ	8
(2) 建設計画が対象とする期間	9
(3) 建設計画の構成	9
第1章 新市の概況からみた可能性	10
1. 新市のフレーム	10
(1) 位置・地勢	10
(2) 人口・世帯	11
(3) 人口動態の見通し	12
(4) 気象	13
(5) 面積	14
(6) 土地利用	15
(7) 都市計画区域	16
2. 新市の競争力	17
3. 新市の暮らしやすさ	20
4. 新市の人を育てる力	21
5. 新市の交流する力	22
第2章 新市将来構想の概要(基本方針)	25
1. 新市将来像(基本方針)の考え方	25
2. 新市まちづくりの基本方針	26
3. 地域の夢	30
第3章 新市建設計画策定の概要	36
1. 建設計画策定のプロセス	36
2. 建設計画策定方針	37
(1) 建設計画策定の視点	38
(2) 建設計画策定の価値基準	38
(3) 建設計画策定の活動留意点	39
3. 建設計画の事業区分の設定	40
4. 戦略方針	41
5. 建設計画掲載事業の考え方	43
第4章 新市建設の施策1 戦略事業～地域らしさ価値の確立	44
1. 戦略事業一覧	44
2. リーディングプロジェクトの概要	48
第5章 新市建設の施策2 生活基盤形成(ナショナルミニマム)事業～安心感の形成	56
第6章 新市建設の施策3 一体感の形成～合併に伴う必要事業	58
第7章 新市における新潟県事業の推進(予定)	
第8章 公共事業の適正配置(予定)	
第9章 財政計画(予定)	

第3章 新市建設計画策定の概要

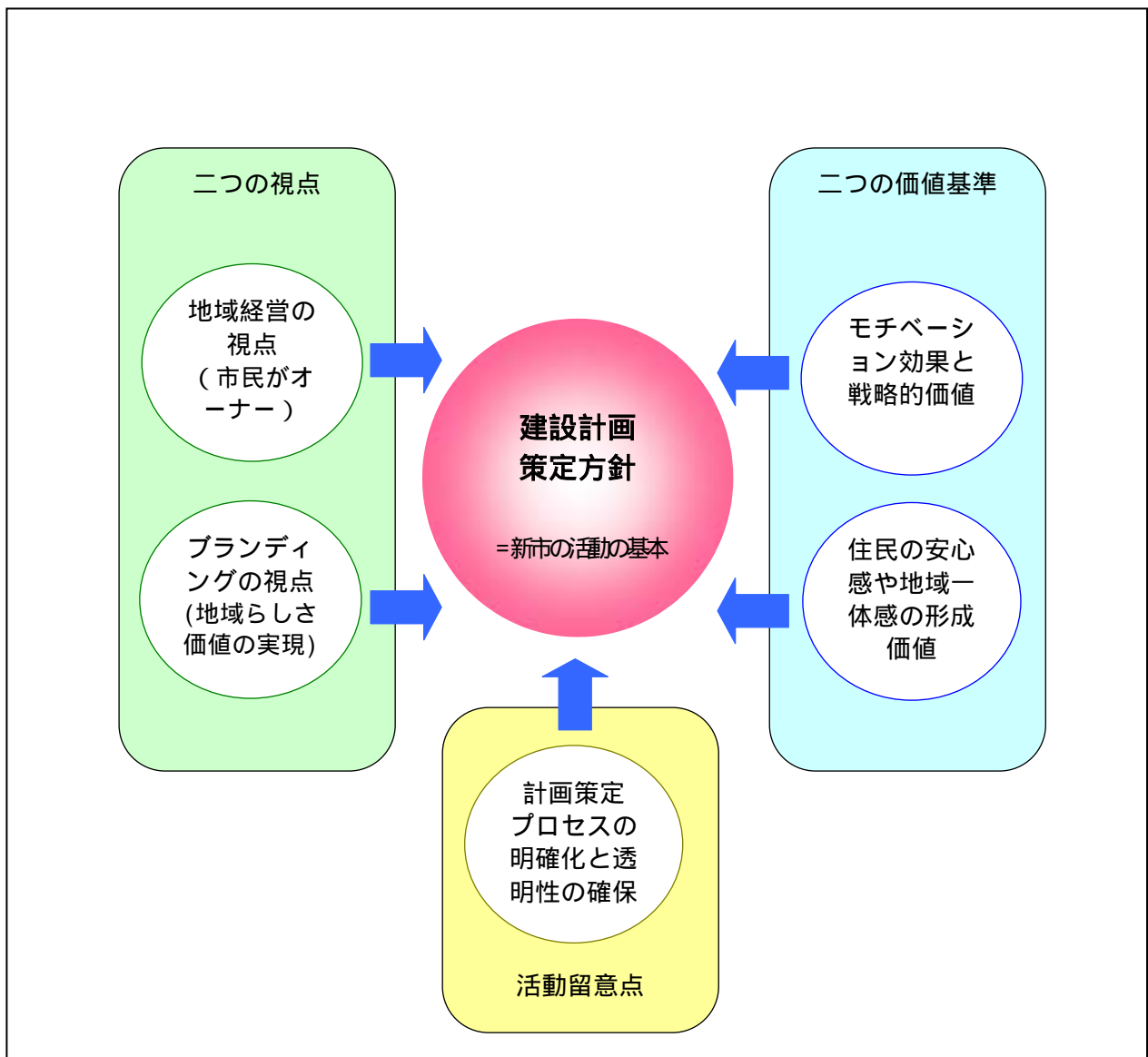
1. 建設計画策定のプロセス

新市建設計画は、すでに策定した新市将来構想を基本方針としつつ、その実現に向けた活動過程も非常に重要であるという認識のもと、下記の流れで策定しました。



2. 建設計画策定方針

建設計画の戦略方針確立、具体的事業案の企画(事業調書の作成)や設定は、以下の基本となる視点や価値基準および活動留意点を定め、それに基づき行いました。これらの方針は、建設計画策定と同時に、これからの新市建設に向けた活動展開の基本となるものです。



(1) 建設計画策定の視点

地域経営の視点（市民がオーナー）

新市の主役は当然ながら、そこに住む市民です。市民は新市のオーナーであり、一人一人の市民が、新市で何ができるかを考え、積極的に参画し、そこでの成果を享受する権利を持っています。一方、行政は新市を具体的に建設・運営するプロでなければなりません。市民に情報を提供し、コミュニケーションや市民参画の仕組みを作ることも行政の役割になります。

従来のに依存した行政から脱却し、市民本位の視点で自己責任・自己決定によって新市を経営していきます。市民と行政がゆるぎないパートナーシップを確立し、将来構想実現に向けて協働すること。これこそが新しい地域経営のあり方です。さらに、経営という視点からは、その効率化と透明性を高めるために、民間の経営手法などの、良いところを積極的に取り入れ、効率的で有効な地域経営を推進していくことが求められています。たとえば、大きな投資を伴うハード事業においては、その計画段階で、市民の視点での需要や効果を見定めるマーケティング調査や検討をきちんと行うこと、実施後は事業の評価を定期的に行い、その効果を測定することなどが必要となります。

建設計画では、こういった地域経営の新しい考え方を前提として、市民の視点が重要であり、市民参画や行政と市民の協働が可能であると考えられる事業を積極的に取り上げました。

ブランディングの視点（地域らしさ価値の実現）

「地域らしさ価値」とは地域のブランドです。地域ブランドとは、新市内外の人々が地域の価値（良いところ、誇るべきところ、競争力のあるところ）を共有し、その価値を確立し高めることによって、新市民が地域で生活することに誇りを持つと同時に、より競争力のある地域をつくっていくもとなるものです。

建設計画は、「地域らしさ価値」を実現するための計画であり、地域ブランドを高めるためのブランディング計画ともいえます。そこでは当然ながら各事業計画が、こういったブランディング活動に貢献するものであるかどうか問われてきます。その事業を行うことによって、地域らしさ価値が高まるかどうか、地域らしさ価値に基づく重点実現項目が実現できるかどうか、こういった視点から事業の設定が行いました。

(2) 建設計画策定の価値基準

モチベーション効果と戦略的価値

地域らしさ価値の実現に向けて着実に新市を建設するのが建設計画です。そこでは上記のブランディングに対する貢献度を正しく測定することが必要になります。そのため、事業設定においては重点実現項目別に具体的な「戦略方針」を定め、特に「戦略事業」と考えられるものを設定しました。

一方、めまぐるしく変化する社会環境の中では、確実に成功するという計画策定は不可能であることも事実です。今後の地方財政の見通しも不確実さが残る中、10年間の計画事業を

予めすべて確定することは大きなリスクを持つことにもなります。

そこで建設計画策定においては、戦略事業の中でも特に戦略性が高く、2~3年でその成果が現れる可能性が高いものを「リーディングプロジェクト」として、特定することにしました。まずはこのリーディングプロジェクトによって、仮に大成功ではなくても、小さな成功を積み重ね、確実に地域らしさ価値を高めていきたいと考えます。

そして、小さくとも確実な成果を実感することによって、新市の市民と行政が「自信を持って将来のために行動する」という気持ち（自己効力感）を共有し、まちづくりのモチベーション¹を高めていきたいと思えます。大きな成果・成功はその積み重ねの中で必ず生まれてくるものです。

住民の安心感や地域一体感の形成価値

市民と行政が一体となって進める地域経営という観点からは、そこに暮らす住民の生活に対する安心感や、地域の一体感醸成に向けた生活基盤整備などへの取り組みも重要といえます。また、合併するにあたっては、各市町村で行われているサービスを統合したり、市町村によって異なる施策を統一していく必要があります。

地域らしさ価値の一つとしても住民生活に関わりの深い「世代がつながる安住都市」がありますが、特に生活基盤整備などで住民の安心感を高める事業は「ナショナルミニマム事業」として登載するものとしました。また、「合併に伴い必要となる事業」についても一体感醸成という視点から登載しています。（ナショナルミニマム事業については、新市発足後の総合計画によってさらに検討するものとします）

(3) 建設計画策定の活動留意点

計画策定プロセスの明確化と透明性の確保

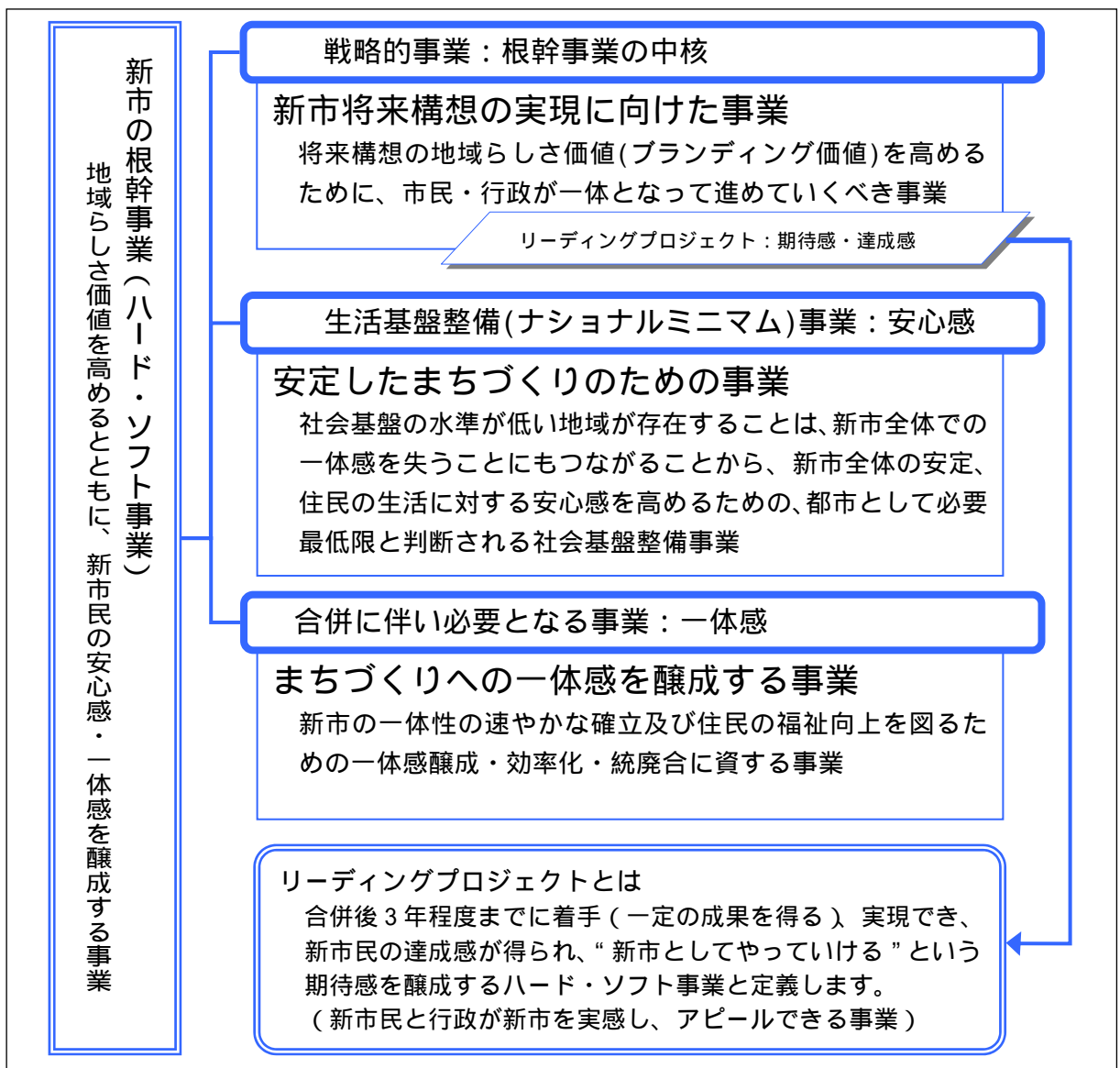
ここまで、建設計画策定のプロセス（過程）や策定方針について、詳しく紹介してきました。これは策定方針の一つとして、建設計画の結果だけではなく、市民と行政がそのプロセスを共有することが重要だと考えているからです。

アンケート調査や住民ワークショップなどで住民の意向を最大限に重視した「長岡地域新市将来構想」の実現に向けて、新市の建設計画は明確な方針とプロセスのもとに進められてきました。地域経営とブランディングの二つの視点、モチベーション効果・戦略的価値と住民にとっての安心感・地域一体感形成価値という二つの価値、その4つの基準によって、策定されています。

改めてこのことを確認することによって、「計画策定プロセスの明確化と透明性の確保」が、今後の新市建設・運営においても重要な方針であることをお伝えします。

3. 建設計画の事業区分の設定

新市建設計画に登載する根幹事業は、前記のプロセスと策定方針のもとに整理されています。その際、当該事業価値が主として戦略的な価値なのか、安心感形成、一体感形成につながる価値なのかによって3つに区分しています。さらに主として戦略的価値を持つ事業の中から、合併後3年程度までに着手・実現でき、住民や行政の新市に対する期待感・達成感を醸成できる（モチベーション効果のある）ものを、リーディングプロジェクトとしました。



4. 戦略方針

建設計画掲載事業のうち、特に「戦略的事業」は、「地域らしさ価値」の「重点実現項目」に対する戦略的価値に即して設定しています。そのため、事業の設定に先立ち、各分野別分科会で、分野ごとの「地域らしさ価値」に対応した戦略方針を作成し、企画・総合計画ワーキンググループが取りまとめて重点実現項目別に「戦略方針」を検討しました。この「戦略方針」は、市民と行政が一体となって新市の「地域らしさ価値」を高めていくために、まず取り組んでいくべき《まちづくりの重要な指針》といえます。その内容は以下のとおりです。

地域らしさ価値・重点実現項目		戦略方針	
独創企業が生まれ育つ都市	新ながおかが誇る技と人をネットワークする匠の国を創り上げる	戦略方針 1	行政が関連団体とのコーディネート ² 役を担い、「技術」「人材」等のネットワークを構築する。
		戦略方針 2	新技術や高付加価値製品の開発につながる機会創出や環境整備を行う。
		戦略方針 3	高速大容量情報通信網の強化など、産業地域としてのインセンティブ ³ を高める。
	新しいビジネスモデルで made in NAGAOKA の魅力を世界に発信する	戦略方針 1	ビジネスモデル開発を促進するための行政の支援機能の発揮と、産学連携などの体制整備を図る。
		戦略方針 2	価値創造型産業都市“NAGAOKA”としてプロモーション活動 ⁴ の推進を図る。
	市民チャレンジャーの成功と雇用を支える新たな起業促進の風をおこす	戦略方針 1	ベンチャー企業 ⁵ やNPOなどを含む新たな雇用を創出する起業家への支援強化を促進する。
未来のエジソンを生む人材教育・人材育成の推進	戦略方針 1	「自分探し」を模索できる機会を提供し、開拓者精神と自立心の醸成を図る人材教育(アントレプレナー ⁶ 教育など)の仕組みづくりを行う。	
	戦略方針 2	再学習機会の創出など、どの年代層からでも産業革新に貢献できる人材を育成する社会システムを構築する。	
元気に満ちた米産地	「新ながおか元気印ブランド」の創造による「食の付加価値」の確立	戦略方針 1	「元気印 = 健康とおいしさ」という長岡農産物のブランド力を支える農家・生産組織の意識喚起や、土づくり活動などの推進を図る。
		戦略方針 2	長岡特産農産物の「元気印 = 健康とおいしさ」というブランド力の強化活動を行う。
	おいしさと安全・健康をキーワードとする「新ながおか料理」の発信	戦略方針 1	地元食材を活用した長岡でしか味わえない新しい郷土料理や健康メニュー、特産品の開発を行う。
		戦略方針 2	地産地消などを体系化し、安全・健康食材生産地域としての“ながおか”を発信する。
	蛸が舞い、人の豊かな営みが展開する「食」「農」のユートピアを生み出す	戦略方針 1	潜在的な地域資源の宝庫である農村や中山間地域に対する意識の醸成と、農産物生産の人材ネットワーク形成を図る。
		戦略方針 2	大都市圏からの来訪者受け入れ体制を整備し、来訪者を含めた地域全体で進める環境・景観保全活動の仕組みづくりを行う。

地域らしさ価値・重点実現項目		戦略方針	
世代がつながる安住都市	「生きる楽しみ」「育つ喜び」が実感できる生活環境の創出	戦略方針 1	市民の声や想いを集める仕組みや地域社会などの情報収集・情報交換の仕組みを確立する。
		戦略方針 2	市民と行政の協働運営によるコミュニティの創出・育成を図る。
	「元気に老いる」熟年力を活かしたまちづくりの推進	戦略方針 1	コミュニティスポーツや介護予防の推進など、元気に老いるために社会人が健康づくりをしやすい環境を整備する。
		戦略方針 2	熟年層からの職業意識形成や熟年の経験を生かした活動場所づくりなどによる高齢者ライフの活性化を図る。
	地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出	戦略方針 1	小・中学生の才能を地域で伸ばす仕組みづくりと活動を強化する。
		戦略方針 2	若年層の豊かな発想を社会に反映させる仕組みづくりを行う。
		戦略方針 3	伝統文化を継承・発信し、未来人を育てる文教都市づくりを推進する。
	「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵プログラム」の開発・推進	戦略方針 1	米百俵の精神に基づく地域住民による地域学校教育プログラムの開発と実践を行う。 『21世紀米百俵プログラム』=学校と地域でつくるコミュニケーション(話し合い)教育プログラムの開発
		戦略方針 2	安全・安心な子育てを追求する環境づくりを行う。
	世界をつなぐ和らぎ交流都市	地域資源を活用した新ながおかコンベンション・シティ ⁷ の創設	戦略方針 1
戦略方針 2			民間活力や様々な人材を活かしたコンベンションの仕組みを強化する。
すべての市民が「新ながおか親善大使」		戦略方針 1	住民の地域に対する愛着・意識形成と、それに基づく市民レベルの交流の活性化を促進する。
		戦略方針 2	青少年活動を通じ“世界”へ“NAGAOKA”を発信する。
「暮らしたい」「働きたい」「遊びたい」・魅力あるまちを目指す		戦略方針 1	にぎわいを創出するための柔軟なまちづくりの仕組みを開発する(市民活力を誘発する社会資本整備)。
		戦略方針 2	市民参画による地域資源を活用した市民が愛着と誇りを持てる景観形成の仕組みづくりを行う。

5. 建設計画掲載事業の考え方

新市建設計画は、前述した明確な策定方針に基づき、定められた事業区分ごとに策定しました。ただし、新市建設計画は事業計画であり、実施計画ではありません。ここに掲載されている事業は、新市建設のために取り組んでいこうとする事業の提示であり、今後の財政状況や社会状況などによって、柔軟に対応していく必要があります。

事業の実施にあたっては、費用対効果や戦略実現への有効性など、地域経営の観点から、その規模や内容についてもさらに検討していくことになります。

次章では下記の事業区分に応じた方法によって、掲載事業を整理しました。

戦略的事業

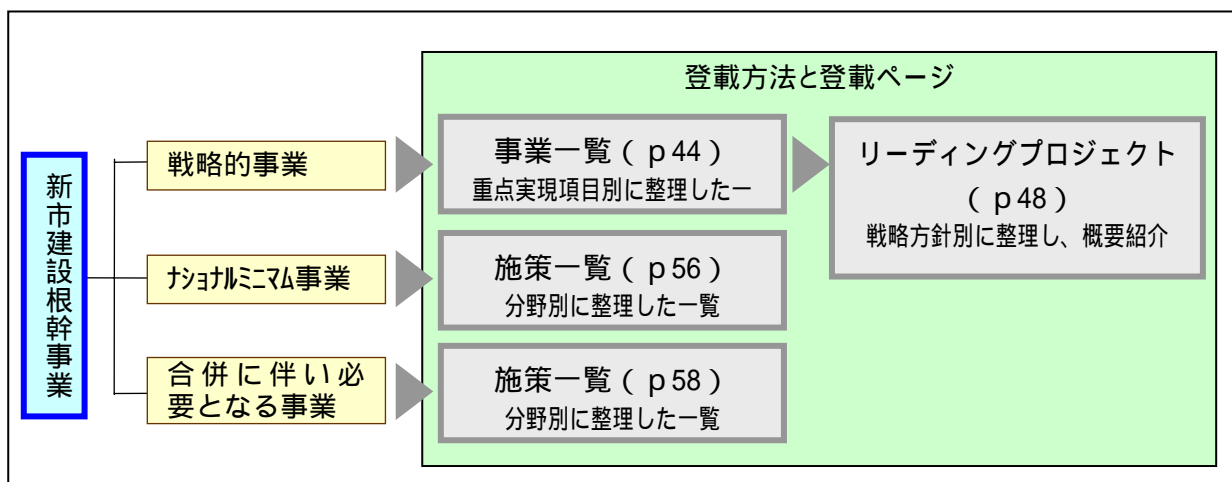
将来構想実現のための戦略的事業は、実現すべき「地域らしさ価値」と「重点実現項目」に即して整理し、事業名を掲載します。このうち特に合併後3年程度までに着手するリーディングプロジェクトについては、その概要を戦略方針ごとに区分して提示します。

生活基盤整備（ナショナルミニマム）事業

安定したまちづくりのための生活基盤整備（ナショナルミニマム）事業は、必ずしも将来構想の「地域らしさ価値」別には整理できないものなので、「居住環境整備」「道路整備」「福祉」などの分野ごとに整理し提示します。（この具体的な内容・時期については、合併後に策定する総合計画で明らかにしていくことになります）

合併に伴い必要となる事業

6市町村合併に伴って必要となる事業および合併を機会に行う施策を提示します。



第4章 新市建設の施策1 戦略事業～地域らしさ価値の確立

戦略事業とは、新市将来構想の実現に向けた事業であり、将来構想の「地域らしさ価値(ブランディング価値)」を高めるために、市民と行政が一体となって、今後10年の間に取り組んでいくべき事業です。すでに述べた建設計画策定方針の地域経営の視点、ブランディングの視点に基づき、戦略方針に即した具体的事業を設定しています。また、新市将来構想「地域の夢」とのかかわりの強いものや市民活動、地域の歴史・伝統文化など、地域資源の強みを伸ばしていくことを大切にしています。

なお、ハード施策にあたっては、まずは十分な調査や市民活動および体制整備などのソフト施策から取り組むものとし、その熟度や効果を見極め必要なものから順次展開することを基本としています。

1. 戦略事業

実現しようとする「地域らしさ価値(ブランディング価値)」「重点実現項目」別に、建設計画期間の10年間で実施を予定している戦略事業は次のとおりです。

(1) 地域らしさ価値 : 「独創企業が生まれ育つ都市」に向けた戦略事業

重点実現項目	戦略事業
新ながおかが誇る技と人をネットワークする匠の国を創り上げる	地域産業ブランド強化事業
	ジョイントベンチャー ⁸ ネットワーク形成事業
	テクノコミッション ⁹ 創設事業
	対企業マーケティング調査事業
	情報基盤導入調査事業
	SOHO オフィス ¹⁰ 拡大による企業集積促進事業
新しいビジネスモデルで made in NAGAOKA の魅力を世界に発信する	地域資源活用型環境ビジネス育成・振興事業
	産学連携強化事業
	新エネルギー・クリーンエネルギー導入促進事業
	新ながおか産業総合情報発信センター整備事業
	アンテナショップ ¹¹ などによる情報の受発信事業
市民チャレンジャーの成功と雇用を支える新たな起業促進の風をおこす	新たな手法による中小企業融資制度事業
	市民起業家創出支援事業
未来のエジソンを生む人材教育・人材育成の推進	まちづくり・ものづくり人材育成事業
	アントレプレナー人材教育カリキュラムの研究開発事業
	ながおか市民大学開催事業
	伝統の技・人育成事業
	学歴を超えた社会教育システム構築事業

(2) 地域らしさ価値 : 「元気に満ちた米産地」に向けた戦略事業

重点実現項目	戦略事業
<p>「新ながおか元気印ブランド」の創造による「食の付加価値」の確立</p>	食の安全・安心・環境保全推進事業
	新たな農業経営(アグリチャレンジ)支援事業
	農作物ブランド力強化支援事業
	農業景観整備事業
	集出荷貯蔵設備整備促進事業
<p>おいしさと安全・健康をキーワードとする「新ながおか料理」の発信</p>	新ながおかメニュー・もてなしのプログラムづくり事業
	女性パワーを活かしたアグリビジネス創出支援事業
	まごころを感じる食材生産地形成事業
<p>蛸が舞い、人の豊かな営みが展開する「食」「農」のユートピアを生み出す</p>	地域における徹底した地域資源分析事業
	休耕田・荒廃地の活用促進事業
	生物資源循環促進事業
	農業・農村活性化に向けた環境整備促進事業
	里山再生による環境・景観保全活動のしくみづくり事業

(3) 地域らしさ価値 : 「世代がつながる安住都市」に向けた戦略事業

重点実現項目	戦略事業
<p>「生きる楽しみ」「育つ喜び」 が実感できる生活環境の創出</p>	市民マーケティング ¹² 事業
	市議会情報発信促進事業
	多様な市民参画のしくみによる各種マスタープランづくりの促進
	公共サービス民間開放研究・開発事業
	市民・行政協働運営によるコミュニティの育成・強化事業
	NPO ¹³ 支援 NPO 設立促進事業
	アセットマネジメント ¹⁴ 手法(資産管理)による道路施設維持管理システム導入事業
	雨水貯留槽設置補助事業
	コミュニティセンター整備事業
	地域支え合い、ふれあい事業(地域福祉ソフト事業)
<p>「元気に老いる」熟年力を活かしたまちづくりの推進</p>	健康づくり強化・推進事業
	介護予防事業
	熟年力活用伝統文化継承システム構築事業
	利便性向上による生涯学習機会拡大事業
	健康増進施設整備事業
	コミュニティスポーツクラブ開設事業
	屋内多目的スポーツ施設整備事業
	福祉・保健センター整備事業
	生涯学習支援センター機能強化事業
	放送大学サテライト長岡学習センター誘致事業
<p>地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出</p>	青少年体験型学習推進事業
	米百俵の精神を生かした教育環境整備事業
	若年層の社会参加促進事業
	歴史・文化の発掘・保存・発信システム構築事業
	図書館ネットワークシステム構築事業
	電子地図情報システム構築事業
	子どもエコセンター整備事業
	ジュニアスポーツ競技力向上事業
<p>「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵プログラム」の開発・推進</p>	コミュニケーションを重視した地域学校教育プログラムメニュー開発事業
	「米百俵の精神」普及・啓発事業
	子育て支援機能強化事業
	子どものからだを丈夫にする食生活向上事業
	通学路の安全性向上事業
	全天候型こども王国整備事業

(4) 地域らしさ価値 : 「世界をつなぐ和らぎ交流都市」に向けた戦略事業

重点実現項目	戦略事業
地域資源を活用した新ながおかコンベンション・シティの創設	地域資源を活用したふれあい交流促進事業
	地域の人材活用によるもてなし体制・基盤強化事業
	コンベンションリサーチ・拠点整備事業
	ものづくり技術、製品などの情報発信事業
	新ながおか交流発信創設事業(道の駅等拠点施設整備)
	広域ネットワークパーク&ライド ¹⁵ 整備事業
	グリーンツーリズム ¹⁶ 推進事業
	重要文化財保全事業
すべての市民が「新ながおか親善大使」	新ながおか魅力発見イベント開催事業
	身近な信濃川としてのイメージづくり事業
	市民交流ネットワーク強化事業
	国際交流市民会議事業
	子ども親善大使育成事業
	駅周辺活性化事業
「暮らしたい」「働きたい」「遊びたい」…魅力あるまちを目指す	新市シンボルとなる長岡駅周辺市街地の開発促進事業
	市民参画による地域固有の景観の発見など、地域分析・研究組織づくり事業
	景観・街並み形成・保全促進事業
	雪貯蔵活用施設研究開発事業
	地域景観周遊施設整備事業
	インターチェンジ整備推進事業
	施設再利用観光交流拠点整備事業

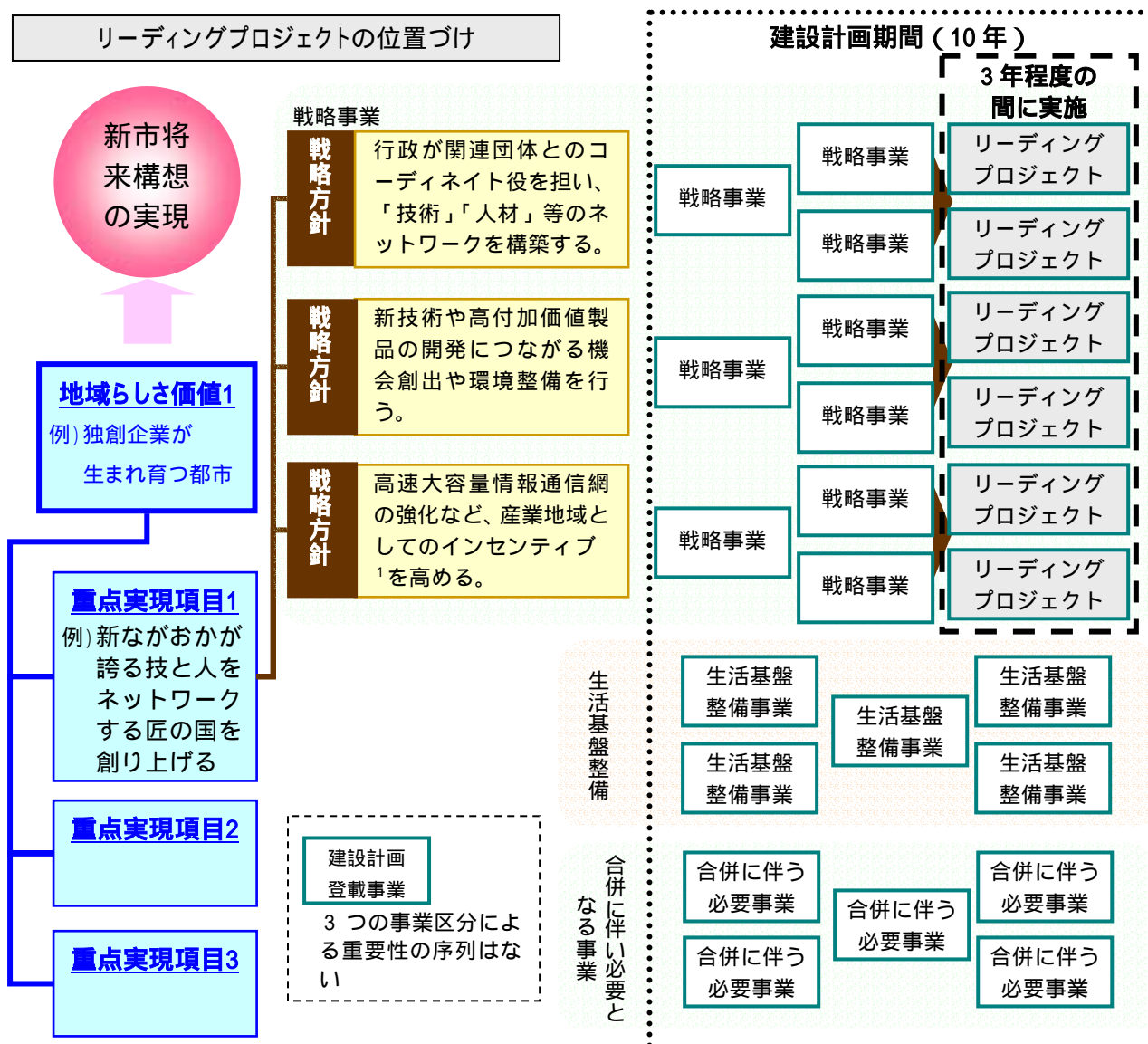
2 リーディングプロジェクト

リーディングプロジェクトとは、前段で述べたように「合併後3年程度までに着手・実現でき、新市民と行政が新市を実感し、アピールできる事業」です。

建設計画掲載事業は、どれも新市建設にとって有益な事業であり、どれが重要かといった比較や判断はもっと時間をかけて行う必要がありますが、少なくともそのすべてを同時に実行することはできません。そのため、戦略事業の中でも、早期に着手可能かつ着手すべきものであり、新市発足後3年程度の間で成果が見込める事業をリーディングプロジェクトとして設定しました。

このリーディングプロジェクトは、新市全体に広めていくものであるとともに、小さくとも確実な成功を積み重ねることによって、達成感を高め、新市建設に向けての動きを加速していく事業ともいえます。

今回設定した「戦略方針」別に整理し、それぞれについてまとめました。



(5) 地域らしさ価値 : 「独創企業が生まれ育つ都市」に関するリーディングプロジェクト

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>新ながおかが誇る 技と人をネットワークする匠の国を創り上げる</p>	<p>行政が関連団体とのコーディネート役を担い、「技術」「人材」等のネットワークを構築する。</p>	<p>地域産業ブランド力強化事業 地域資源ブランド化に向けての調査研究(組織育成・産業化への助成制度検討など) 錦鯉産業育成事業の推進 新ながおか産業情報発信センター等整備への展開</p>
		<p>ジョイントベンチャーネットワーク形成促進事業 産業界、大学・民間研究機関、商工会議所などのネットワーク形成に向けた支援(総合ポータルサイト¹⁷整備、交流の場の創設など)</p>
	<p>新技術や高付加価値製品の開発につながる機会創出や環境整備を行う。</p>	<p>テクノミッション創設事業 新市全体を産業技術の実証実験の場として積極的に提供し、新技術や高付加価値製品の開発を促進・誘発させる新たな組織(行政手続きの一括代行・支援)の創設</p>
		<p>対企業マーケティング調査事業 地域内に立地する諸企業に対するマーケティング活動を事業化し、総合環境の向上を模索し、地域としての支援を展開</p>
	<p>高速大容量情報通信網の強化など、産業地域としてのインセンティブを高める。</p>	<p>SOHO オフィス拡大による企業集積促進事業 高速通信網を供えたインキュベーション施設¹⁸、SOHO オフィスの提供 企業集積による情報交換促進など、産業地域としてのインセンティブ向上</p>
		<p>情報基盤導入調査事業 産業の高度化に寄与する情報基盤の内容・導入方法についての調査促進</p>
<p>新しいビジネスモデルで <i>made in NAGAOKA</i> の魅力を世界に発信する</p>	<p>ビジネスモデル開発を促進するための行政の支援機能の発揮と、産学連携などの体制整備を図る。</p>	<p>地域資源活用型環境ビジネス育成・振興事業 新エネルギー技術の開発、ビジネスモデル化支援</p>
	<p>価値創造型産業都市“NAGAOKA”としてプロモーション活動の推進を図る。</p>	<p>産学連携強化事業 大学・研究機関などからの技術移転の促進、インターンシップ¹⁹の積極展開</p>
		<p>新エネルギー・クリーンエネルギー導入促進事業 公共施設への積極的な新エネルギー設備導入 クリーンエネルギー(電気・天然ガスなど)自動車導入促進、補助制度創設 など</p>

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>市民チャレンジャーの成功と雇用を支える新たな起業促進の風をおこす</p>	<p>ベンチャー企業やNPOなどを含む新たな雇用を創出する起業家への支援強化を促進する。</p>	<p>新たな手法による中小企業融資制度事業 事業者の持つ技術、信用力や償還期間に応じた柔軟な融資制度を新たに創設</p>
		<p>市民起業家創出支援事業 人材の発掘と組織化や経営指導などの支援 ニッチな市場²⁰をターゲットとした企業家の成功モデル構築</p>
<p>未来のエジソンを生む人材教育・人材育成の推進</p>	<p>「自分探し」を模索できる機会を提供し、開拓者精神と自立心の醸成を図る人材教育(アントレプレナー教育など)の仕組みづくりを行う。</p>	<p>まちづくり・ものづくり人材育成事業 長岡デザインフェアによる産業教育の促進 地域の歴史・文化・伝統を通じた体験重視プログラムづくり</p>
		<p>アントレプレナー²¹人材教育カリキュラムの研究開発事業 産業・教育分野を中心とした民間企業との連携による起業家育成の研究・開発 長期に渡る教員の企業活動交流体験機会の創出</p>
	<p>再学習機会の創出など、どの年代層からでも産業革新に貢献できる人材を育成する社会システムを構築する。</p>	<p>ながおか市民大学開催事業 市民向け公開講座への支援、県内外のネットワークによる講座分野の多様化、市民団体による企画・運営の促進</p>
		<p>伝統の技・人育成事業 人材発掘の情報発信イベント開催 伝統産業への研修者の受け入れ体制整備</p> <p>学歴を超えた社会教育システム構築事業 大学卒業などの既往の学歴枠によらず、専門学校や短大卒などからでも修士号を取得できるシステムづくりを目指した活動推進</p>

(6) 地域らしさ価値 : 「元気に満ちた米産地」に関するリーディングプロジェクト

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
「新ながおか元気印ブランド」の創造による「食の付加価値」の確立	「元気印 = 健康とおいしさ」という長岡農産物のブランド力を支える農家・生産組織の意識喚起や、土づくり活動などの推進を図る。	食の安全・安心・環境保全推進事業 栽培履歴(トレーサビリティ)の促進 土壌・水質診断、土づくりの促進・拡大
		新たな農業経営(アグリチャレンジ)支援事業 農業プロ養成講座の新分野への展開 新たな農産物・加工品の開拓・販売促進支援
おいしさと安全・健康をキーワードとする「新ながおか料理」の発信	長岡特産農産物の「元気印 = 健康とおいしさ」というブランド力の強化活動を行う。	農作物ブランド力強化支援事業 ブランド化への意識醸成とビジョン・行動プランの策定 生産者・農業団体・関係機関等の連携体制の整備や販路拡大への支援
		新ながおかメニュー・もてなしのプログラムづくり事業 伝統料理の発掘、名物料理の開発 女性パワーを活かしたアグリビジネス創出支援事業 女性の感性を活かしたアグリビジネス創出に向けた場の提供、情報発信、開業融資などの支援
蛩が舞い、人の豊かな営みが展開する「食」「農」のユートピアを生み出す	地元食材を活用した長岡でしか味わえない新しい郷土料理や健康メニュー、特産品の開発を行う。	まごころを感じる食材生産地形成事業 学校給食への地元食材導入促進による地産地消推進 農作業体験などを通じた生産者と消費者との総合学習やコミュニティ活動の促進 地元産野菜の直売促進
		地域における徹底した地域資源分析事業 休耕地・荒廃地の活用促進事業 生物資源循環促進事業 生ゴミなどの生活面での資源循環の促進 農畜連携による資源循環型農業の推進 堆肥プラント等の整備
		農業・農村活性化に向けた環境整備促進事業 地域の多様な環境特性や景観資源に配慮した、生産・消費・生活のシステムづくり 地域農家や住民主導による地域受入体制づくり等
		里山再生による環境・景観保全活動のしくみづくり事業 交流活動を通じた、里山の多面的な維持や管理、整備
潜在的な地域資源の宝庫である農村や中山間地域に対する意識の醸成と、農産物生産の人材ネットワーク形成を図る。	地産地消などを体系化し、安全・健康食材生産地域としての“ながおか”を発信する。	
大都市圏からの来訪者受け入れ体制を整備し、来訪者を含めた地域全体で進める環境・景観保全活動の仕組みづくりを行う。		

(7) 地域らしさ価値 : 「世代がつながる安住都市」に関するリーディングプロジェクト

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>「生きる楽しみ」「育つ喜び」が実感できる生活環境の創出</p>	<p>市民の声や想いを集める仕組みや地域社会などの情報収集・情報交換の仕組みを確立する。</p>	<p>市民マーケティング事業 市政モニター制度の拡充などの市民生活マーケティング活動の強化</p>
		<p>市議会情報発信促進事業 インターネットによるライブ配信システムの構築</p>
		<p>多様な市民参画のしくみによるマスタープランづくりの促進</p>
	<p>市民と行政の協働運営によるコミュニティの創出・育成を図る。</p>	<p>公共サービス民間開放研究・開発事業 公共施設の管理運営業務を民間に委託</p>
<p>市民・行政協働運営によるコミュニティの育成・強化事業 コミュニティ創出のための支援強化 地域コミュニティ拠点づくり コミュニティセンター整備事業の展開</p>		
<p>NPO 支援 NPO 設立促進事業 NPO を支援したり、NPO の設立に向けた協議の場づくりやコーディネイト、地域人材の開発促進</p>		
<p>「元気に老いる」熟年力を活かしたまちづくりの推進</p>	<p>コミュニティスポーツや介護予防の推進など、元気に老いるために社会人が健康づくりしやすい環境を整備する。</p>	<p>健康づくり強化・推進事業 個人の健康づくりを地域が支えていくための仕組みづくり 屋内多目的コミュニティスポーツ施設整備事業 健康づくり、地域支え合い拠点整備事業の展開</p>
		<p>介護予防事業 介護予防プランの作成や介護予防活動の充実 介護予防に関するパワーリハビリテーション²² 開発 健康増進施設展開のための調査</p>
	<p>熟年層からの職業意識形成や熟年の経験を生かした活動場所づくりなどによる高齢者ライフの活性化を図る。</p>	<p>熟年力活用伝統文化継承システム構築事業 熟年力を活用した伝統文化・伝統技術の継承システムづくり</p>
	<p>利便性向上による生涯学習機会拡大事業 既存施設を活用した生涯学習支援 放送大学サテライト²³ の誘致活動推進</p>	

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出	小・中学生の才能を地域で伸ばす仕組みづくりと活動を強化する。	青少年体験型学習推進事業 自然・スポーツ・科学などをテーマとした多様な体験学習システムづくり 地域資源を活用した拠点・施設の整備を展開 米百俵の精神を生かした教育環境整備事業 教育特区取得などによる、様々な子供に適応した教育の多様化を促進
	若年層の豊かな発想を社会に反映させる仕組みづくりを行う。	若年層の社会参加促進事業 空き店舗、オープンスペースを活用した「若者まちづくり大学」等の開設 若年層の自由な発想・想像力を活かした駅周辺市街地のにぎわい創出
	伝統文化を継承・発信し、未来人を育てる文教都市づくりを推進する。	歴史・文化の発掘・保存・発信システム構築事業 資料保存管理システムの充実 地域に散在する情報・資料収集による地域デジタルアーカイブ ²⁴ 事業の展開
		図書館ネットワークシステム構築事業 電子地図情報システム構築事業 地域の空間地理情報に、各時代の人々の想いを書き込む、双方向蓄積型データベース ²⁵ づくり
「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵プログラム」の開発・推進	米百俵の精神に基づく地域住民による地域学校教育プログラムの開発と実践を行う。 「21世紀米百俵プログラム」=学校と地域でつくるコミュニケーション(話し合い)教育プログラムの開発	コミュニケーションを重視した地域学校教育プログラムメニュー開発事業 教師・地域住民・子どもからなる、大人と子どものコミュニケーション教育プログラムの開発 地域資源、伝統文化との触れ合いを体験する子どもと大人が共に育つ場づくり
		「米百俵の精神」普及・啓発事業 大学進学奨学金、留学生派遣、米百俵賞等の新市への拡大・強化
「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵プログラム」の開発・推進	安全・安心な子育てを追求する環境づくりを行う。	子育て支援機能強化事業 放課後児童クラブの拡充 既存幼稚園活用等による幼保一体型総合施設機能の強化 子育てサークルへの保育士派遣支援 マーケティング調査による特別保育専用施設整備の推進
		子どものからだを丈夫にする食生活向上事業 子ども食生活アドバイザーの配置
		通学路の安全性向上事業 歩道除雪路線の延伸による冬の通学路安全確保促進

(8) 地域らしさ価値 : 「世界をつなぐ和らぎ交流都市」に関するリーディングプロジェクト

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>地域資源を活用した新ながおかコンベンション・シティの創設</p>	<p>新市の伝統や地域資源を活用した特色あるふれあい交流活動を追求する。</p>	<p>地域資源を活用したふれあい交流促進事業 長岡まつりを核とした地域まつりネットワークづくり 旅行会社との連携による観光ツアーの開発 PR へんなかつurisズム拠点整備事業の展開 闘牛場および周辺環境整備事業の展開 重文・長谷川低地歴史博物館整備事業の展開</p>
		<p>地域の人材活用によるもてなし体制・基盤強化事業 各地域の文化や伝統芸能体験メニュー開発 地域を案内する“地域の達人(インストラクター)”組織化 体験モニター制度等によるもてなし体制の強化 ネットワークづくりから、活動拠点となる施設整備等へ展開</p>
<p>地域資源を活用した新ながおかコンベンション・シティの創設</p>	<p>民間活力や様々な人材を活かしたコンベンションの仕組みを強化する。</p>	<p>コンベンションリサーチ・拠点整備事業 新ながおかならではのコンベンションのあり方、地域内での適地選定など、中核となる施設やコンベンション・システムについての調査、研究促進 コンベンション拠点整備事業の展開</p>
		<p>ものづくり技術、製品などの情報発信事業 技術・製品の紹介とあわせた、企業データベースや市の産業施策などを発信する総合的サイト構築</p>
<p>すべての市民が「新ながおか親善大使」</p>	<p>住民の地域に対する愛着・意識形成と、それに基づく市民レベルの交流の活性化を促進する。</p>	<p>新ながおか魅力発見イベントの開催事業 ながおかのまち発見ツアーの拡充 ツール・ド・NAGAOKA など独自のイベントの企画・実施</p>
		<p>身近な信濃川としてのイメージづくり事業 信濃川を活用したハイキングコース設置などの交流施策の促進</p>
		<p>市民交流ネットワーク強化事業 公民館の連携による地域資源発掘活動の推進 ホームステイ(民泊)ネットワークづくりと交流種別への支援 既存施設を活用した芸術・文化体験プログラムの開発</p>
		<p>国際交流市民会議事業 国境を越えた市民の交流・意見交換の促進による全市民交流機会の創出 市民国際交流拠点整備への展開</p>

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
すべての市民が「新ながおか親善大使」	青少年活動を通じ“世界”へ“NAGAOKA”を発信する。	子ども親善大使育成事業 環日本海、東南アジアこども会議の開催 テレビ電話システムを活用した青少年国際会議の開催
「暮らしたい」「働きたい」「遊びたい」・魅力あるまちを目指す	にぎわいを創出するための柔軟なまちづくりの仕組みを開発する(市民活力を誘発する社会資本整備)。	新市シンボルとなる長岡駅周辺市街地の開発促進事業 “新市の顔”としての駅周辺整備 中心市街地における整備促進 民間企業の立地ニーズ調査と新たな立地促進
	市民参画による地域資源を活用した市民が愛着と誇りを持てる景観形成の仕組みづくりを行う。	市民参画による地域固有の景観の発見など、地域分析・研究組織づくり事業 景観や歴史物など、新たな地域価値を地域の人々が発見し、活用を促進する。研究グループの組織化
	景観・街並み形成・保全促進事業 雁木の街並み景観の整備促進	

第5章 新市建設の施策2 生活基盤整備（ナショナルミニマム）事業～安心感の形成

住民が必要な行政サービスを受享受し、安心して暮らしていくために、新市の生活基盤を整備していくことは行政の重要課題であり、生活基盤整備（ナショナルミニマム）事業はそのために行われるものです。生活基盤としての必要性や住民の満足度向上に貢献するものを登載事業として設定し、地域的に整備が遅れているものなどを重視しています。

なお、事業実施にあたっては、その必要性や緊急性を個別に判断したうえで、順次、事業に着手することになります。

各地域の継続的（工事等着手済み）事業については、新市でも引き続き実施していきます。

分野	小区分	主要な施策内容
居住環境	区画整理	区画整理事業の実施
	上下水道	上水道施設の整備・改良 簡易水道の整備 公共下水道施設・雨水排水施設の整備・改良 浄化センターの整備 浄化槽の整備
	住居	公営住宅の整備・住宅供給の推進 住宅融資の推進
	快適な生活への取り組み	生活交通の継続確保・充実 情報化基盤の整備
	美しい景観・レクリエーション	公園・緑道・緑化などの推進
	斎場・墓園	斎場の整備 墓園の整備
	環境	廃棄物最終処分場の整備

分野	主要な施策内容
道路整備	都市計画道路など幹線道路の整備 生活関連道路の整備・改修 国・県道路の整備 除雪・融雪施設の整備・改修
福祉	福祉施設の整備 介護老人施設の整備 バリアフリー化の推進
産業基盤	農業基盤の整備 産業道路のネットワーク整備 林道の整備 高度情報化推進 地域産業の振興
教 育	児童館の整備 安全性の向上のための学校改築の推進 学校施設の充実 学校図書の実施 学校間情報ネットワークの整備・充実
文化・スポーツ	図書館の整備・統合 劇場の機能再生 体育施設の整備 スポーツ事業の実施

第6章 新市建設の施策3 合併に伴い必要となる事業～一体感の形成

現在、6市町村の間では公共施設の表示方式や公共情報ネットワークのシステムなど、異なる方式で運用されているものがあります。新市発足後は、これらの方式やシステムを統一するとともに、現在6市町村で別々に行われている各種の防災・防犯施策などを統合し、効率的かつ一体的に活動ができるように整備する必要があります。また新市発足は、抜本的な改革や、今後の活用が期待される情報システムを活用した住民サービスなどを開始する契機でもあります。

「合併に伴い必要となる事業」は、このような観点から新市建設に必要・有効と考えられる事業です。緊急性の高い防犯・防災分野事業と情報化促進事業、そして合併を契機とする取り組み事業に分けて紹介します。なお、これら事業においても、生活基盤整備（ナショナルミニマム）事業と同じく、その必要性や緊急性を個別に判断したうえで、順次、事業に着手することになります。

分野	主要な施策内容
防災の充実と防犯の促進	消防施設の整備、装備の充実 備蓄物資の整備 移動系防災行政用無線の統廃合の実施 防災用気象情報供給システムの整備 雨量観測システムの整備 市民への災害情報伝達システムの整備 交通安全普及活動の実施 地域防犯活動の実施、啓蒙推進 防犯灯の整備
情報化の促進	電子市役所の推進 消防通信施設の整備 e-ネットシティながおかの推進
合併を契機とする取り組み	合併記念事業の実施 観光施設・公共施設へのサイン計画の実施 教育センター研修機能の整備・充実 市町村間道路ネットワークの整備

第7章 新市における新潟県事業の推進

第8章 公共施設の適正配置

第9章 財政計画